藤根文藝

藤花榭文藝

湖北工业学院图书馆
藏书章

平成七年三月二十日　印刷
平成七年三月三十日　発行

藤楓文芸　第26刊　【非売品】

不許
複製

編者　財団法人　藤楓協会
発行者　財団法人　藤楓協会

東京都港区新橋六―一三―一三　辻ビル　三階
電話(03)三四三二―〇七二六(代表)〒一〇五
FAX(03)三四三二―〇七二七

『藤楓文芸』第26刊の発行に際して

財団法人　藤楓協会理事長　大　谷　藤　郎

ハンセン病療養所で闘病生活を送る人びとの中には、障害を克服して、書道、絵画、盆栽、手工芸、陶芸、音楽等の道に精進され、あるいは詩、短歌、俳句、川柳等の文芸作品に没頭されて、とかく単調になりがちの日々の生活に潤いをもたれ、さらには、これに生き甲斐をすら感じている人びとも数多くおられます。

このような文芸作品の優秀作を全療養所から募集し、我が国一流の権威ある先生方に選をしていただいた『藤楓文芸』を昭和四十三年に発刊してから、早くも二十六年を経過し、本年は第26刊を発行することになりました。

この発刊を藤楓協会が続けておりますのは、一つには各療養所におられる文芸愛好の

人びとの交流と励みに役立たせることであり、他面には社会の多くの人びとに一読していただき、ハンセン病療養所に日々を送る人びとの生活をしのび、ハンセン病を正しく理解する運動に参加していただきたいのがその目的であります。

藤楓協会は、貞明皇后さまの御遺志を体して、ハンセン病の正しい理解を推進する運動を中心として、患者さんの慰問等の諸事業を行ってまいりました。そのうち最も主要な行事の一つとして、昭和五十八年からはそれまでの『貞明皇后をしのびハンセン病を正しく理解する集い』に代えて、毎年『貞明皇后をしのぶ在園者慰問激励の会』を実施しておりますが、御生涯をハンセン病対策のために御尽力くださった初代総裁高松宮殿下薨去後は、『貞明皇后・高松宮をしのぶ在園者慰問激励の会』として、現在の総裁高松宮妃殿下、また、総裁御名代として三笠宮寛仁親王同妃両殿下に療養所にお成りをいただき、開催いたしております。

当協会は平成四年に創立四十周年を迎えましたが、この記念事業として、故高松宮殿下を追慕し、また過去百年にわたるハンセン病事情の変遷とその対策事業の歴史を明らかにし後世に資するため関係資料を収集し一般に公開展示する「高松宮記念ハンセン病資料館」の建設を進めてまいりました。総裁高松宮妃殿下のなみなみならぬご尽力をい

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

ただき、財界はじめ各方面の御理解と御協力を得てようやく竣工し、平成五年六月二十五日に落成の式典を開催、即日から一般の方々のご高覧に供しております。

全国十五か所の療養所に現在なお約六千人が入所しておられますが、その療養生活の現状と、つい先日まで不治の天刑病として社会から極度に嫌悪され、悲惨きわまりない苦難の生涯を送らざるを得なかった過去の暗い歴史及びかつてこの病者救済のため貞明皇后さまをはじめ皇室の方々やその一生を捧げられた内外の宗教家、医師、看護婦さんなどの多くの尊い先人の業績を、多くの方々に知っていただけるものと思っております。今後とも「資料館」に格別のご理解を賜わり、一層の御援助をお願いいたします。

また、昭和二十八年に制定された現行らい予防法は、医学的・社会的・国際的にみて問題ありとして、ハンセン病患者団体である〝全患協〟から改正要望が提出されていますが、これを受けて厚生省より藤楓協会に研究委託されているハンセン病予防調査検討会（座長大谷藤郎理事長）において検討を行うこととして、現在専門家及び関係者による審議を行っております。いずれ近く結論が出される予定になっており、ハンセン病問題解決へと大きく一歩を踏み出すことと期待されております。

近年は医学の進歩によりハンセン病も治る病気となり、社会との交流も年々活発にな

っております。療養所に在所する人びとに皆様方の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成七年三月

高松宮記念ハンセン病資料館

所在地　東京都東村山市青葉町四-一-一三　☎(〇四二三)九六-二九〇九

交　通　西武新宿線久米川駅／西武池袋線清瀬駅　下車　いずれも南口から全生園経由バス　多摩研究所前下車　徒歩二分

開館時間　午後一時～四時まで　入館無料

休館日　毎週月・金曜および祝祭日

藤楓文芸 第26刊 目次

序　財団法人藤楓協会 理事長 大谷藤郎……一

詩　那珂太郎選……七

短歌　岡野弘彦選……五五

俳句　稲畑汀子選……一〇一

川柳　渡辺蓮夫選……一三一

随筆　那珂太郎選……一六五

ハンセン病を正しく理解するために……二四一

藤楓協会の由来……二四五

ハンセン病療養所所在地および在所者数……二五三

題字　倉永圓清

詩

那珂太郎選

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

入選一

唇に咲く花

（盲）〈栗生〉桜井哲夫

未明の空に雨があった
療友を乗せた車は闇を走る
千葉県市川市に住む村松栄子さんの家の門前に
　車は止まった
雨はやんでいた

夏の盛りに栄子さんから手紙があった
赤や、黄色や、白い木槿(むくげ)の花が咲き乱れています
手を引いてくれる栄子さんは咲き残る木槿の花に
　触れさせてくれる
貴方の来るのを一生懸命に待っていたのよ木槿の花は

テーブルを囲んで療友達との話は尽きない
座を立った栄子さんは一枝の木槿の花を手折(たお)り
しっかりと私の唇に触れさせる
これが葉っぱ、これがお花
手に取りしっかりと唇と舌先で探り続ける
突然目の前が真昼のように明るく光った

たった一つ残った見えない目に光はななめに走った
二度、三度頭を振った

光はなおもななめに走る
ななめに走る光の中で
唇に咲いた木槿の花が泣いている

療友の一人は、持って来たビデオテープを
　回している
村松武司の墓標がビデオテープと共に回る
合わせた手の中に触れたばかりの木槿の微かなかおりがあった
唇に咲いた木槿の花はまだ泣いている
耳奥に聞こえるのは、あの先生の優しい笑い声

栄子さんの振る手に送られて霊園を離れる
秋雨前線の空には
光はなかった

入選二

蕪島で

〈松丘〉天地聖一

島は産卵の季節で
神社から浜辺へ続く　斜面は
まだ枯れ草におおわれていた
頭上を鳴きながら乱舞する
数万羽のゴメ達の巣作りが
生命の呱々の声を待ちながら
激しくおのれの持場を　求め合っていた

防波堤や海草の生えない　岩に打ち寄せる
波の穂の触れ合いで　生まれた　白い花が
磯の香る吹雪と化して　舞い上がる
浅瀬には錆び剝げた船体を傾け
航海の疲れだけを晒している　廃船

少女は白い汚れの点在する階段を昇り
神社で厳粛な姿で合掌したのち
求めた御神籤は　吉であった
その視線は未来をのぞむ
青春の大志が漂う　羽音の群れと共に
春遅い北国の空と海を　青く深める

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.